

## シリーズ お温習い（おさらい）しましょう！

主任手当って知っていますか？主任制反対のとりくみは、現在の高校会館の奨学金にもつながっています。

### 第7回 主任制反対闘争

1971年中教審答申は、校長、教頭、主任の職制機構の整備と五段階給与（主任の給与を教頭と教諭の間に新設）の推進を強調しました。

74年に文部省（現文科省）はその答申を受け、主任等に給与上必要な措置を講ずる（後の主任手当を支出する）としました。

75年3月には、「校長の特1級格付け」が出され、「五段階賃金制」が導入されようとなります。日教組はこれを教育の国家統制強化であるとし、中央での政労交渉が行われましたが決裂してしまいます。そこで、23の都道府県教組、17の高教組が全国連帯をして午後1時行動開始による半日のストライキで反対運動をすることとしました。高教組も、「主任手当導入は組合組織分断を目的とした管理体制強化・主任の中間管理職化つながる」「主任手当の財源を高校増設等の緊急教育予算に振り分けるべき」として、「主任制反対」の意思を表明し、12月に突入率86%でストライキを行いました。76年には、「3・9全国統一行動」により84.4%の突入率で2回めとなるストライキを行いました。

77年8月、自民党は人事院に主任手当支給実施を勧告させます。高教組は主任手当個人受領拒否の方針を決定し県教育長と交渉しますが、現場実態無視の回答をします。

連日の動員交渉で回答の撤回を迫り、最終的に以下の3点について確認しました。

- ①主任決定には職員の希望意見をとること。
- ②手当の支給に関しては、現場の混乱のないように対処すること。
- ③諸問題について今後も交渉を継続すること。

この主任手当を個人受領せずに県民に還元しようという趣旨で、主任手当抛出運動が始まりました。抛出された主任手当をもとに、県内各地で講演会を開催し県民に歓迎されました。また孫と獵犬との愛情を描いた映画「マタギ」のフィルムを購入し、盛岡・北上で上映会を開催し3,500人も県民が来場しています。

82年には、経済的に困難な子どもたちを対象に奨学生を募集し、100人に5万円を給付しました。このとりくみが現在の高校会館の奨学金に受け継がれています。昨年度は県内各学校から8,477,785円のカンパが集まり、225人の子どもたちに給付されています。